

Ⅱ 最近の世界における食料需給の動向

Ⅱ－１ 穀物等に関する国際価格の動向

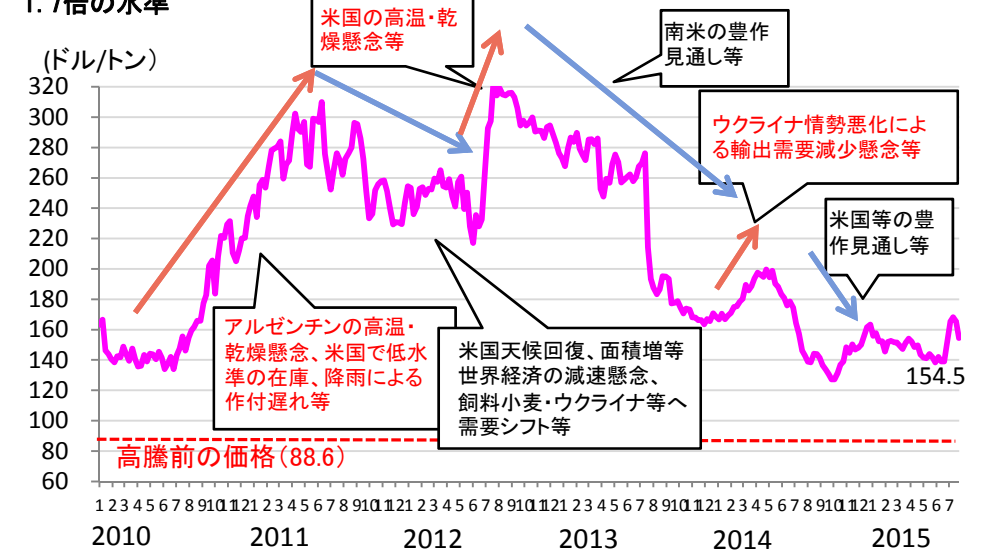
【図１】小麦価格の推移

2012年10月以降、下落傾向にあるものの、2006年8月と比べ1.4倍の水準



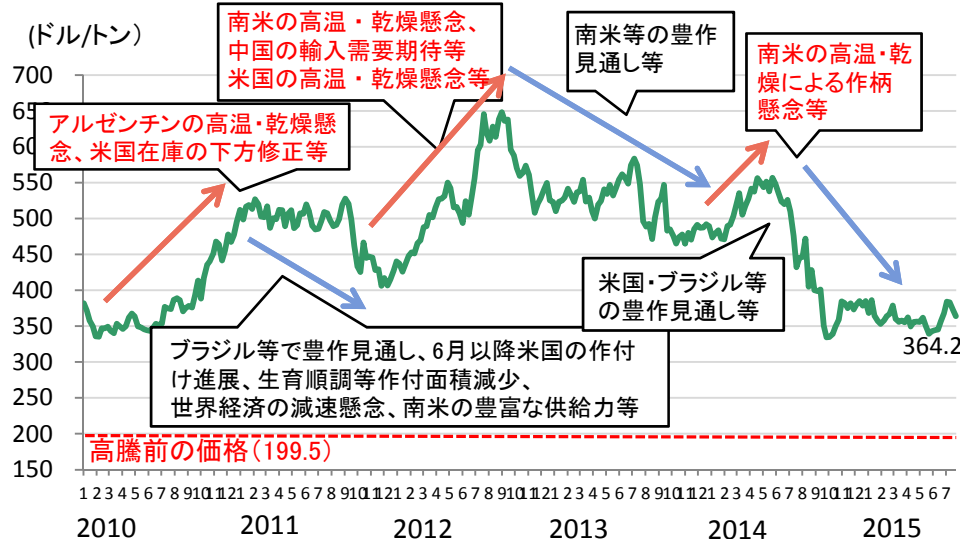
【図２】とうもろこし価格の推移

2013年7月後半、新穀の需給緩和見通しにより大幅に下落も、2006年8月と比べ1.7倍の水準



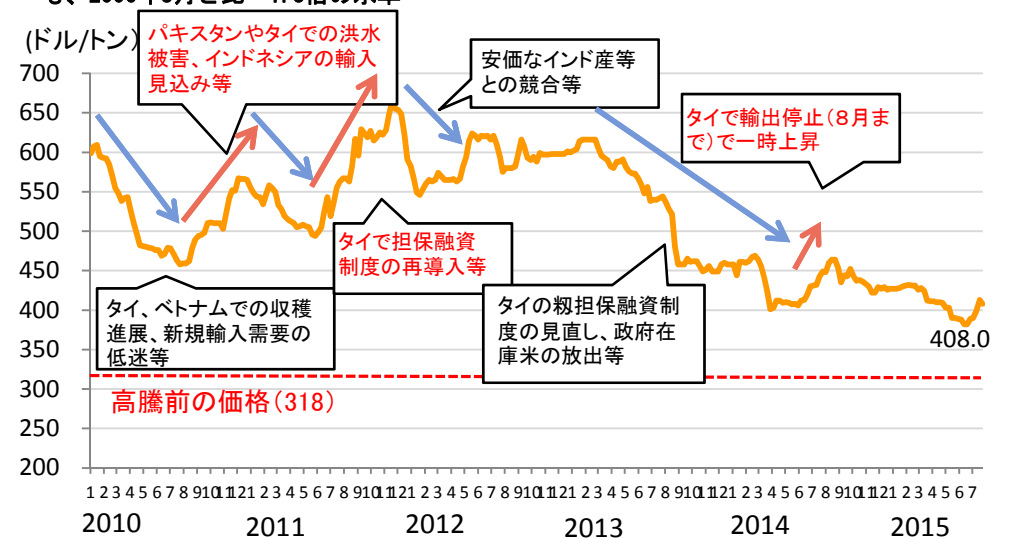
【図３】大豆価格の推移

2013年7月後半、新穀の需給緩和見通しにより下落も、2006年8月と比べ1.8倍の水準



【図４】米価格の推移

2013年7月以降、タイの糶担保融資制度の見直しの動きや、政府在庫米の放出等から下落も、2006年8月と比べ1.3倍の水準

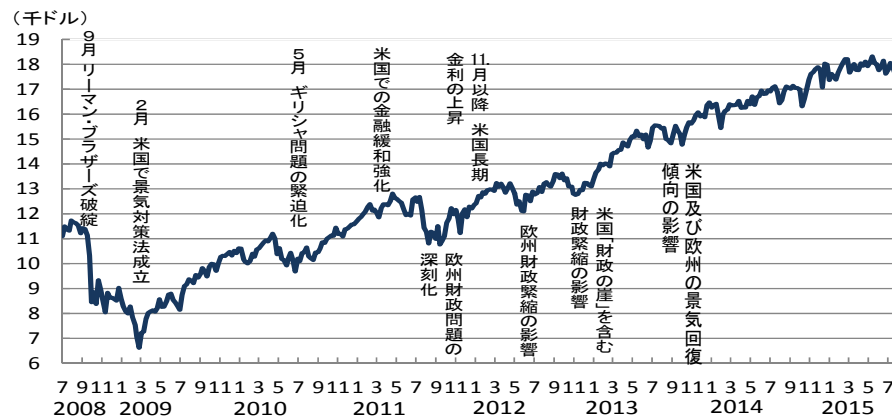


注：小麦、とうもろこし、大豆はシカゴ商品取引所の毎週金曜日の期近価格。米は、タイ国家貿易取引委員会公表によるタイうるち精米100%2等のFOB価格である。
高騰前の価格は、2006年8月25日の価格である。（ただし、米は2006年8月30日の価格）

Ⅱ－２ 穀物市場を取り巻く各種経済動向

- 1 2007年8月以降、サブプライムローン問題に関連した欧米の金融市場の混乱が続き、2008年9月の米国大手投資銀行の破綻を契機として「世界金融危機」が発生。投機資金の急激な流出、世界的な不況による消費全体の減退懸念などにより、商品価格が大幅に下落。
- 2 その後、2009年2月頃に底を打った後は景気回復への期待感などにより、商品価格は再上昇したが、2011年半ば以降、世界経済の減速に伴い、商品価格は横ばいで推移していたが、2014年に原油価格の影響などにより下落。N Yの株価は米国の景気回復等が見込まれて上昇傾向。原油価格は、上下を繰り返す展開であったが2014年に下落。

【図1】株価（NYダウ平均）の推移



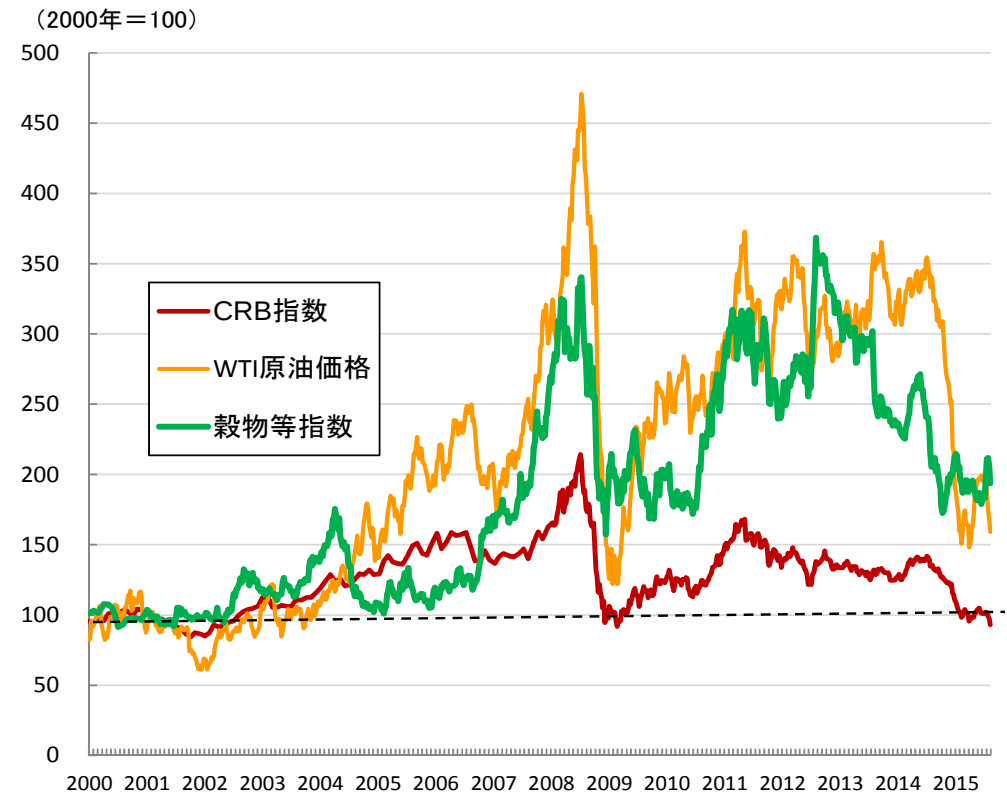
出典：ロイターES時事 注：NYダウ工業株30種平均株価の毎週火曜日の終値である。

【図3】ドル指数とCRB指数の推移



出典：ICE「US Dollar Index®」
ロイター/ジェフリーズ 注：ICE（インターコンチネンタル取引所）ドルインデックス先物の毎週金曜日の終値である。CRB指数は、図2注参照。

【図2】商品指数(CRB指数)、原油価格等の推移



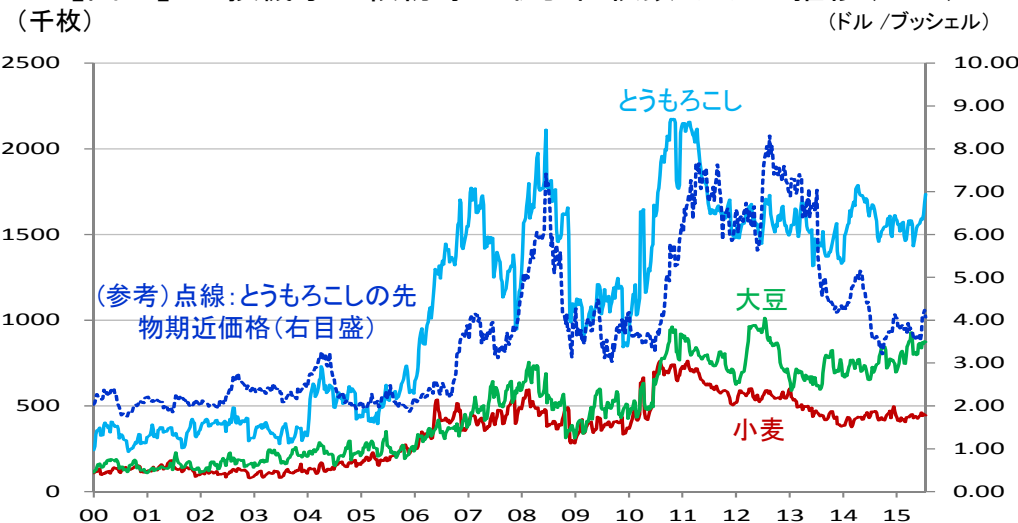
出典：ロイター/ジェフリーズ、ロイターES時事、U.S. Energy Information Administration

注：ロイター/ジェフリーズCRB指数は、毎週金曜日の指数。WTI原油価格は週平均価格。穀物等指数は、シカゴ商品取引所3商品価格（小麦、とうもろこし、大豆）を平均して指数化。

Ⅱ－２（参考） 穀物市場における投機家による先物取引の推移

- シカゴ商品取引所における穀物等先物の投機家の取引総枚数は、近年おおむね横ばいで推移。
- 現在のところ、穀物価格は小幅な動きで推移、直近の投機家による買越枚数は、小麦・とうもろこし・大豆ともに増加傾向。

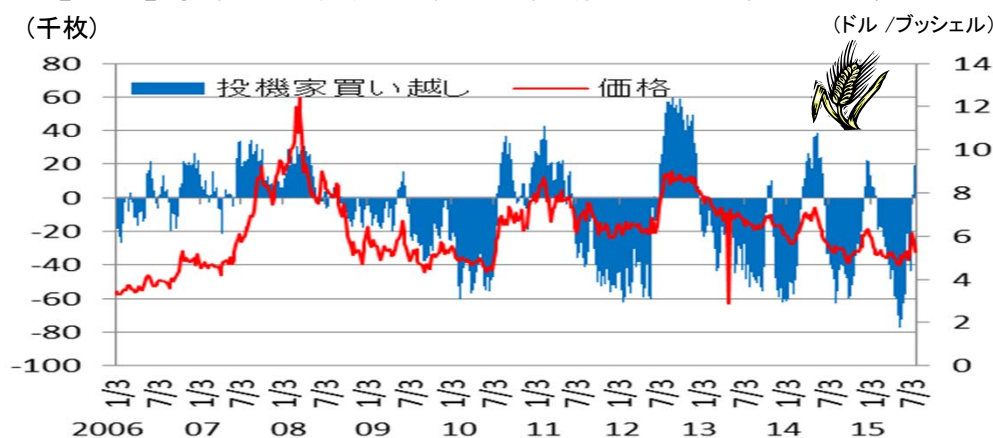
【図１】 投機家の穀物等の取引総枚数（注）の推移（CBOT）



資料：US.CFTC「Futures-and-Options Combined Reports」により作成

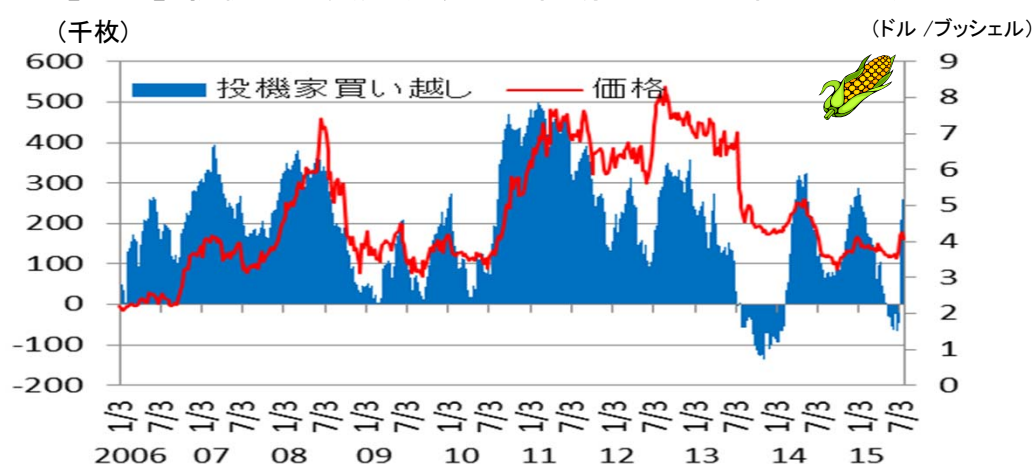
注：取引総枚数は、投資家(NonComm)による先物の買い枚数、売り枚数の合計である。

【図２】 投機家の買越枚数と先物期近価格の推移（小麦）

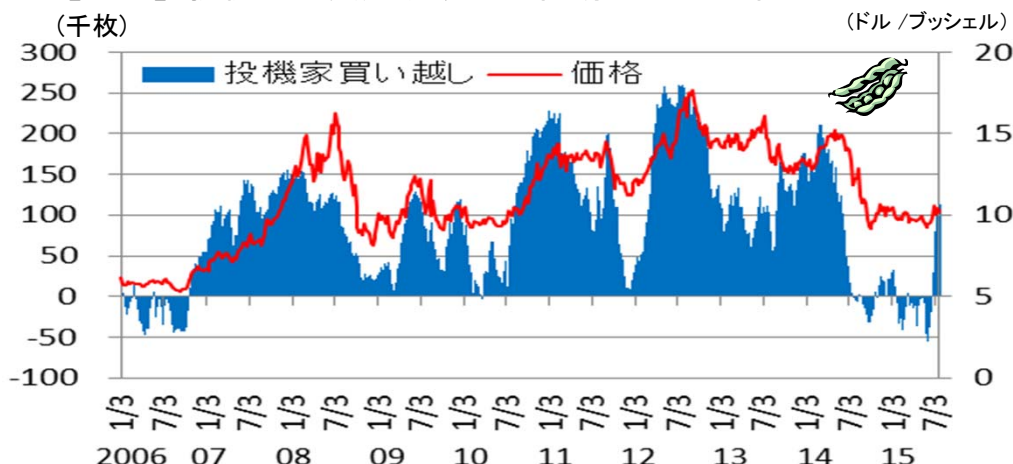


資料：US.CFTC「Futures Only Reports」、IGC「Futures Prices」により2006年1月第3週～2015年7月第3週までの毎週火曜日の数値で作成。図3及び図4も同じ。

【図３】 投機家の買越枚数と先物期近価格の推移（とうもろこし）



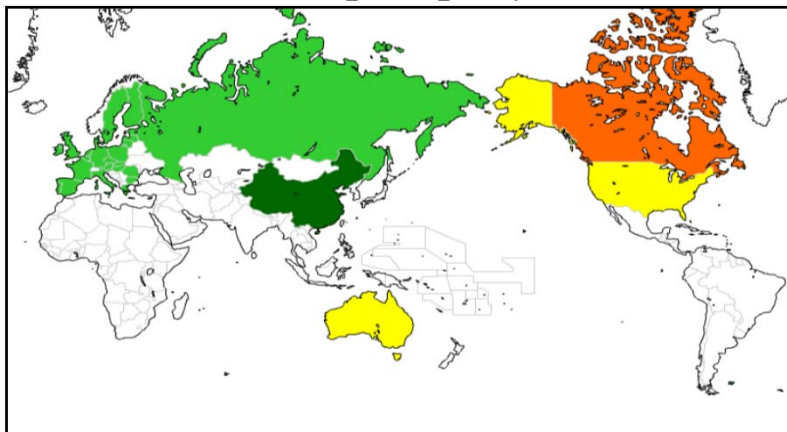
【図４】 投機家の買越枚数と先物期近価格の推移（大豆）



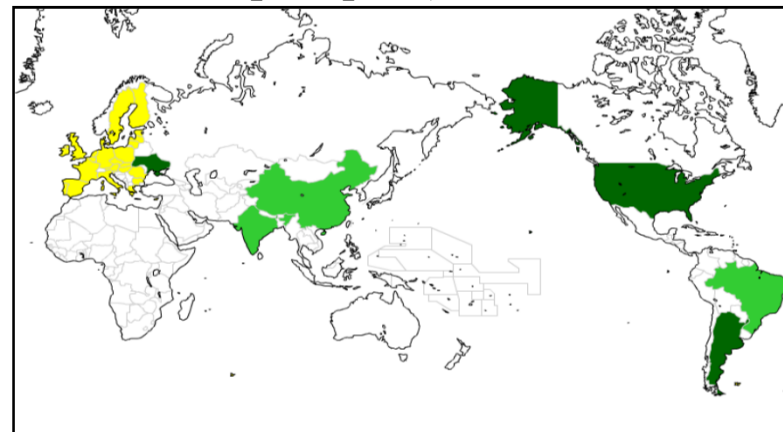
Ⅱ-3 穀物等の主要生産国の作柄(単収の過去5年平均との対比、2015年7月時点)

2015/16年度の主要生産国における穀物等の作柄については、【小麦】中国は、良の見込み。EU及びロシアは、やや良の見込み。米国及び豪州は、やや不良の見込み。カナダは、不良の見込み。【とうもろこし】米国、アルゼンチン及びウクライナは、良の見込み。中国、ブラジル及びインドは、やや良の見込み。EUは、やや不良の見込み。【米】ミャンマーは、良の見込み。中国及びベトナムは、やや良の見込み。インド、インドネシア及びバングラデシュは、平年並みの見込み。タイは、やや不良の見込み。【大豆】アルゼンチン及びパラグアイは、良の見込み。米国及びブラジルは、やや良の見込み。中国、インド及びカナダは、平年並みの見込み。

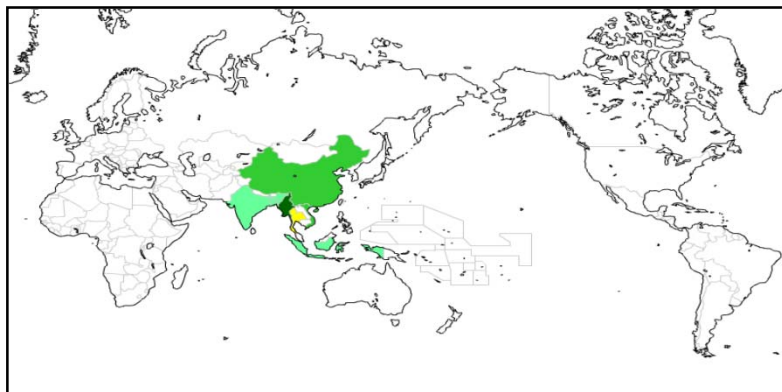
【図1】小麦



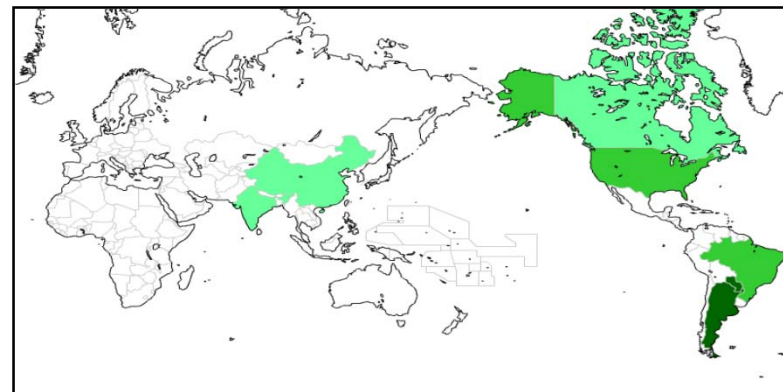
【図2】とうもろこし



【図3】米



【図4】大豆



単収の過去5年
平均との対比

106以上	(良)
102以上～ 106未満	(やや良)
99以上～ 102未満	(平年並み)
95以上～ 99未満	(やや不良)
91以上～ 95未満	(不良)
91未満	(著しい不良)

※ 気象庁は、2015年7月10日付けのエルニーニョ監視速報(No. 274)で、「エルニーニョ現象が続いている。今後、冬にかけてエルニーニョ現象が続く可能性が高い。」と発表した。

資料：米国農務省「P S & D」(2015. 7) を基に農林水産省にて作成

注：主要生産国は、各品目別に生産量の過去3年平均の上位7カ国を対象(2015年5月時点)。作柄概況は過去5年間の単収の平均に対する2015/16年度の単収(見込み)の比較により区分。なお、EU(欧州連合)の加盟国(28カ国)については、EUとして一括区分。

Ⅱ－4 中国の旺盛な穀物等の輸入需要

- 大豆の輸入量は、搾油需要等の増大により増加。2015/16年度の輸入量は、前年度を上回る7,750万トンと予想され、世界全体に占める輸入シェアは64%と前年度並みの見込み。
- とうもろこしは、飼料需要等の増大により、2009/10年度以降輸入に転じた。2013年11月より未承認遺伝子組換え種問題で米国産の輸入を拒否したが2014年12月に再開。2015/16年度の輸入量は、前年度並みの300万トンの見込み。
- 小麦の輸入量は、2013/14年度は製粉用小麦の国内供給ひっ迫に伴い急増したが、2014/15年度は需給の緩和により減少した。2015/16年度の輸入量は、前年度を上回る200万トンの見込み。

【表1】大豆主要輸入国の輸入量とシェアの推移

(輸入量：百万トン シェア：%)

		2012/13	2013/14	2014/15	2015/16
中国	輸入量	59.9	70.4	74.0	77.5
	シェア	62.4	63.2	63.8	64.2
EU	輸入量	12.5	13.0	13.0	13.1
	シェア	13.1	11.7	11.2	10.8
日本	輸入量	2.8	2.9	2.9	2.9
	シェア	3.0	2.6	2.5	2.4
世界全体	輸入量	95.9	111.3	115.9	120.8
	シェア	100.0	100.0	100.0	100.0

資料:USDA「PS&D」(2015.7)

【表2】とうもろこし主要輸入国の輸入量とシェアの推移

(輸入量：百万トン シェア：%)

		2012/13	2013/14	2014/15	2015/16
中国	輸入量	2.7	3.3	3.0	3.0
	シェア	2.7	2.6	2.6	2.5
EU	輸入量	11.4	15.9	8.5	14.0
	シェア	11.4	12.9	7.3	11.6
日本	輸入量	14.4	15.1	15.0	15.0
	シェア	14.4	12.2	12.9	12.4
世界全体	輸入量	99.8	123.8	116.5	120.8
	シェア	100.0	100.0	100.0	100.0

資料:USDA「PS&D」(2015.7)

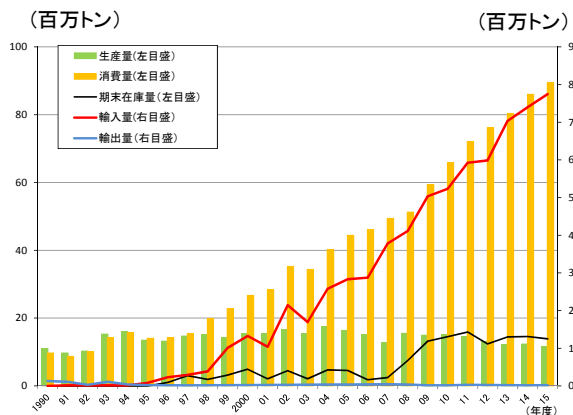
【表3】小麦主要輸入国の輸入量とシェアの推移

(輸入量：百万トン シェア：%)

		2012/13	2013/14	2014/15	2015/16
中国	輸入量	3.0	6.8	1.7	2.0
	シェア	2.0	4.3	1.1	1.3
エジプト	輸入量	8.3	10.2	11.4	11.5
	シェア	5.7	6.4	7.1	7.4
日本	輸入量	6.6	6.1	5.8	5.8
	シェア	4.5	3.9	3.6	3.7
世界全体	輸入量	145.4	158.2	160.2	155.3
	シェア	100.0	100.0	100.0	100.0

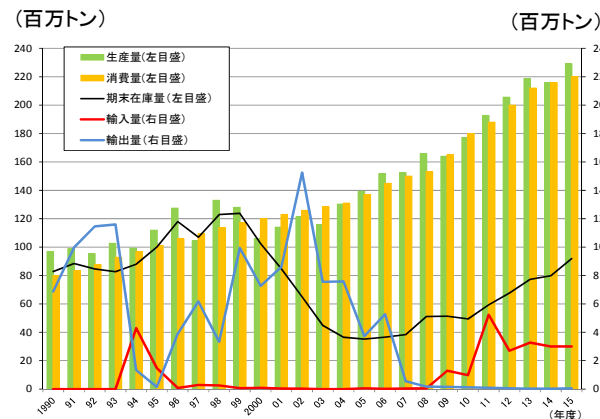
資料:USDA「PS&D」(2015.7)

【図1】中国の大豆の需給の推移



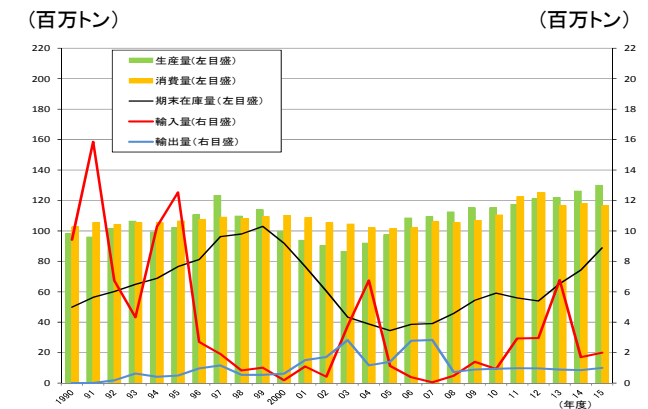
資料:USDA「PS&D」(2015.7)を基に農林水産省にて作成

【図2】中国のとうもろこしの需給の推移



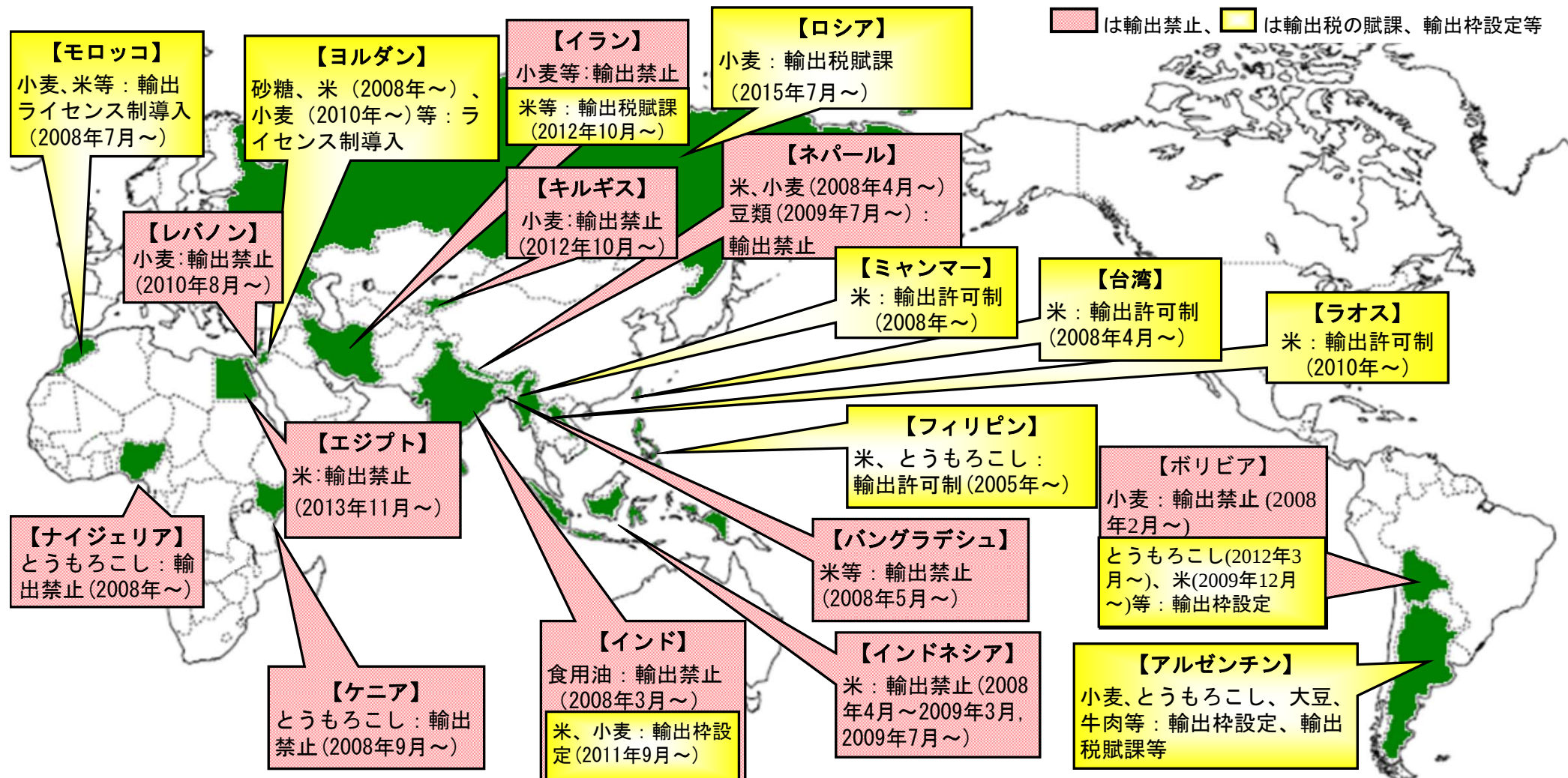
資料:USDA「PS&D」(2015.7)を基に農林水産省にて作成

【図3】中国の小麦の需給の推移



資料:USDA「PS&D」(2015.7)を基に農林水産省にて作成

Ⅱ－７（参考）農産物の輸出規制の現状



資料：農林水産省作成（2015年7月15日現在）

- 注：過去に実施された措置
- ① 輸出禁止：カンボジア（コメ）、ベトナム（コメ）、ラオス（コメ）、インド（コメ、小麦、とうもろこし）、パキスタン（小麦）、アルゼンチン（小麦等）、ブラジル（政府米）、ボリビア（とうもろこし、コメ等）、エクアドル（コメ）、ホンジュラス（豆類、とうもろこし）、ロシア（小麦等）、カザフスタン（小麦）、セルビア（小麦等）、ベラルーシ（菜種等）、モルドバ（小麦）、ブルキナファソ（穀物）、コートジボワール（カカオ）、エチオピア（小麦等）、ギニア（農林水産物）、マラウイ（とうもろこし）、タンザニア（穀物、砂糖）、ザンビア（とうもろこし）
 - ② 輸出税賦課：ロシア（小麦、大麦）、ウクライナ（小麦等）、ベトナム（コメ）、キルギス（小麦等）、中国（小麦、大豆、コメ等）、アルゼンチン（乳製品）
 - ③ 輸出枠：カンボジア（コメ）、ウクライナ（小麦、大麦等）